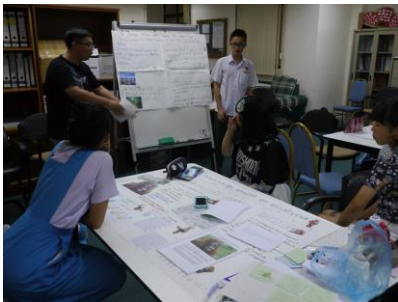


滝高フロンティアサイエンス通信

海外研修特集号 [平成 27 年 8 月 17 日～24 日] 第 16 号

マレーシアレポート 6日目(8月22日)

研修6日目、天気は晴れ。この日の予定は、サバ大学でのプレゼンテーション発表、3度目のディスカッション、クリアス半島にてリパークルーズでした。また、3日間一緒に過ごしたホームステイ先の人たちとのお別れの日でもありました。



まず始めに2日間研究を進めた3チームそれぞれの研究課題についてのプレゼンテーションを行いました。ポスターを何度も手直して、それを使って、調べたこ

とを英語で発表しました。日本の高校生は緊張している人もいましたが、現地の高校生は堂々としていて「見習わなくては！」と思いました。しかし、マレーシアに来たばかりの時よりも英語で話すことに慣れたように感じました。

その後、日本の学生はマレーシアについてわかったこと、マレーシアの学生は日本についてわかったこと、そして互いの国の疑問点について発表し合いました。日本側からは「マレーシアは野良犬が多い」「辛い食べ物が多い」マレーシア側からは「日本人は時間に厳しい」「サムスン(韓国の携帯メーカー)のスマートフォンを使っている人がいないのは何故？」等が挙げられました。普段当たり前だと思っていることが他国の人から見れば、文化の違いになることが改めてわかりました。



午前の活動を終えた後は、サバ大学の敷地内にあるビーチでバーベキューをしました。普段は大学の水産学部の研究や、地元の中学生の課外授業の際に使用されるそうです。この日も別の団体の人たちが使用していました。

バーベキューはウィンナーや紫芋を焼いたり、ナシゴレンやミーゴレンといったマレーシアの料理を食べました。豚肉はムスリムの人が食べられないので、ありませんでした。食べ終わった後はビーチで少し遊びました。そして、ホームステイ先の人たちとはこれでお別れ。最後にみんなで集合写真を撮って、ビーチを後にしました。

次に向かったのはクリアス半島です。ここではリパークルーズで熱帯雨林やそこに



住む生物の観察をしました。夕方になるとテングザルの群れが涼しい水辺で夜を過ごすために集まってきます。テングザルは毒のある植物しか食べません。お腹の中に毒を分解するバクテリアが住んでいるそうです。またバナナ等の甘い果実を食べるとお腹の

中にガスが発生して、最悪死んでしまうそうです。他にも、リーフモンキーというテングザルよりひとまわり小さく、銀色の体毛を持った猿もいました。頭の毛がサッカー選手のデビッド・ベッカム選手に似ていることでも知られています。また、大人は銀色の体毛なのですが、子供は金色の体毛でとても可愛かったです。

ワニもいるらしいのですが、運悪く見ることはできませんでした。ここで一度陸に戻り、夕食を食べてからもう一度リパークルーズに行きました。夜になると様々な種類の蛍がたくさんいました。小型船の運転



手さんがライトを点滅させると、それに反応して蛍の群れが一斉に光を放ってとても綺麗でした。この光り方は蛍の種類によって違うそうです。

小型船の運転手の方は日本語でガイドしてくれました。なぜ話せるかというと、長年ガイドをしていて、日本人観光客の話を聞いていて自然と覚えたそうです。

6日目は、英語での発表で緊張したり、ホストファミリーとの別れで悲しくなったり、珍しい体験に感動したりと忙しかったですが、普段経験できないことをたくさんできて、とても勉強になったし、すばらしい思い出をたくさん作ることができました。

(報告者) 1F32 加藤凜花